

## 令和5(2023)年度 下都賀地区教育相談連絡会第2回研修会を開催しました

日 時：令和5(2023)年10月6日（金）

会 場：小山市立文化センター小ホール

参加者：

- ・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者

- ・下都賀地区各市町教育支援センター担当者

- ・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者

- ・県南健康福祉センター総務企画課・健康支援課担当者

- ・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員

- ・下都賀地区小・中・義務教育学校教職員

### 1 研修内容について

○目的 (1) 教育相談に関わる今日的な話題や課題について研修を深め、教育相談に関わる担当者の資質の向上を図る。

(2) 不登校や引きこもり傾向のある児童生徒、その保護者への対応やカウンセリングについて学ぶ。

○内容 講話1 「教育支援センター（適応指導教室）からの実践発表」

栃木市教育支援センター「はばたき」

講話2 「教育相談体制の充実に向けて～チーム支援による対応力向上研修～」

講師 栃木県スクールソーシャルワーカー 坪井 雅代 SV

### 2 本研修で学んだこと（参加者が記入した〈研修の振り返り〉より）

○これまで、ケース会議やチーム体制での児童への支援のほぼ全てを、同学校の職員とばかりやってきました。本日、家庭相談員の方など、違う職種の方と対応策を出し合う活動を通して、「こんなにも頼りになる方々がいたのか！」と強く感じました。自身の勉強不足に気付かされるとともに、今後に生かしていきたいと思う素晴らしい研修会でした。

○初めて会った方たちとこれだけ意見が出し合えるのだから、学校内でももっと気軽に、構えずに話し合って支援をつなげていけるとよいと思いました。学校外にも色々な立場でサポートしてもらえる人や機関があると、改めて気付きました。

○事例について、様々な立場から話を聞くことによって、多くの情報を得られることや、中学校の視点から考えることの違いにも気付くことができた。また、SSWの知識やつながりがとても大きく、学校だけでは分からぬことをつないでくださる大切な役目を果たされていることがよく分かりました。今回のような研修は、大変学びが多かったです。また参加したいと思います。

○栃木市の教育支援センターが5カ所もあることが、とても素晴らしいと思いました。不登校の児童生徒が通いやすいこと、これが一番大切だと思います。琴寄先生の自己肯定感の高め方について、様々な方向から詳しく説明してくださいり、とても勉強になりました。これから児童生徒との関わりに役立てていきたいと思います。

○情報収集の大切さについて、とても重要だと思いました。グループ内ではとても活発に話合いができ、とても有意義な時間でした。しかし、他のグループのまとめを見せていただいた時、自分のグループの知らなかつた情報があることに気付き、驚きました。それを知っているかどうかで支援が変わると思うと、少し怖いなども感じました。

○立場の異なるメンバーで情報収集やアセスメントをしてみて、自分にはない視点をたくさん知ることができました。特に、家庭相談員の方など行政側の視点はとても新鮮で、家庭の問題を解決していくためには重要な視点だと強く感じました。学校だけで解決しようとせず、必要な機関と連携することが、子どもや家庭の幸せにつながることを実感しました。

○一言で不登校といって、その子が抱えている背景は異なるため、問題解決の難しさを改めて感じました。その中で、養護教諭としてはやはり「つなぐ」ということが重要だと思いました。「何かおかしいな」「あの子大丈夫かな?」と思った時点で、校内で話せる先生に話す必要があると感じました。

○他のグループの様子も見ることができ、情報収集のあまさやチームで検討することで短い時間でも手立てが見いだせると実感できました。坪井SSWさんの「他職種」「多角的」という言葉がストンと落ちました。様々な視点で見ることの大切さ、配置されているSSW、SCとの連携の在り方について、考えたいと思いました。今回のような事例検討はとても勉強になりました。

○教育支援センターの実践発表からは、一人一人の目指す目標が違うことや、自己肯定感を高める支援について学び、大変参考になりました。自己肯定感を高めるための声かけの大切さを知り、子どもから学ぶことも多くあるなど、自分も楽しみ、子どもの時間を大切にしようと感じました。

○あらためて、学校と外部機関、家庭とのつながりの必要性、重要性を確認できました。「つなげる」手段を知っているかどうか、家庭に紹介できるかどうかという学校や担当の知識や認識の度合いにより、対応の早さ等に影響が出ると思われます。各学校の研修でも扱っていただきたいです。

○情報収集の重要性、アセスメントの重要性を再認識させていただきました。また学校が使える情報、つながれる機関等、児童や保護者の支援につながる資源が想像以上にたくさんあることにも気付かせていただきました。使える資源はどんどん使い、選択肢を増やして、明日からまた支援にあたりたいです。

○今回のような形のグループ協議は初めてでしたが、一人一人の参加者が真剣に話し合い、実際のケース会議の場を再現しているかのようでした。このような研修を数多くの先生方が体験することで、各市町で視野の広くそしてきめ細かな支援が展開されていくのだと思います。意義のある時間となりました。

○「チーム支援」が大切であると多くの場面で言われるが、本日の具体的な活動を通して、その意味を体験することができました。様々な立場のメンバーで多角的に意見を出すことで、自分にはない見方を知り、深まりを感じました。他の班の成果物を見て、初めて知る情報もあり、情報提供者へ何を聞くのかなど、情報収集の大切さもよく分かりました。

